



惜別の辞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, 英昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/1371

惜 別 の 辞

私達が心から敬愛してまいりました大野吉輝、唄野 隆両教授には、平成7年3月末日をもって、ご停年により本学を退職されることになりました。これはすでに定まっていたことではありますが、いまその日を迎えてみますと、惜別の情まことに深いものがあります。

大野教授は、大阪大学経済学部から同大学大学院経済学研究科に進学され、昭和34年に本学経済学部赶赴されました。以後今日まで一貫して本学での教育と研究にご努力いただいてまいりました。

先生のご研究は財政学を中心として、それに関連する広い領域にわたっております。先生が特に深い関心をもって研究されてきましたのは財政による所得再分配政策、福祉政策、社会保障政策などではありますが、ご研究はさらに地方財政をめぐる諸問題にも及んでいます。これらのご研究は、現実に対する新しい視点と深い洞察から出発して、厳密な論理の展開がなされ、大きく新しい理論体系として構築されているものであります。それらは対象とされている諸問題の分析にとって、実証的、理論的に貴重な貢献であるとともに、そこに含まれている政策的含意にも大きなものがあります。先生は最近地方財政に関するテキストを刊行されましたが、これは先生の教育に対する情熱の一端をうかがわせるものであります。

大野先生は社会の各方面でまことに有意義な活動を続けてこられました。校内行政の面でも、評議員、各種委員会委員として多大の貢献をしていただきました。特筆すべきは経済学部長として、講座を再編成し、教育課程の改善をはかって、経済学部における研究と教育の一層の発展のための礎を築かれたことであります。

先生は事物の本質を鋭くかつ正確に見透され、広い視野から公正な判断を下されるとともに積極的な指導力を発揮されました。これらは、先生の真摯なお人柄と相まって、私達の先生に対する深い信頼を生む源となってまいりました。

唄野教授は神戸大学経済学部から同大学大学院経済学研究科に進まれ、桃山

学院大学、神戸市外国語大学を経て、昭和48年に本学経済学部へ赴任されました。以後深い愛情をもって学生を指導され、今日に至られました。

先生のご専門は金融論であります。ご研究の基礎には、経済学は温かい血の通った人間の直面する問題を解決するものでなければならないというご認識があり、このようなお考えは、先生が利子率の低位・下方硬直性と失業の関係を最初の研究テーマとされたことにもよく表われています。先生は、以後、貨幣と他の金融・流動資産の選択の問題、金融資産・負債の金利決定の問題、さらには国債管理政策や中央銀行の金融政策の問題などについて研究されてきました。これらのご研究を通じて、先生は、およそ経済現象は、それが貨幣とか金融にかかわるものであるか否かを問わず、その規則性の解明のために科学的、合理的に分析されるばかりでなく、それらが人間としての多面的な生活や全体としての社会に与える影響をも併せて考察されなければならないと考えておられます。

このことは先生がクリスチャンであられることに根ざしているものであります。先生が研究対象とされてきましたものの多くは現実性の高いものであります。先生が経済学が一見してきわめて抽象的な理論と見えることがあったとしても、その根底には人間と人間のつくる社会に対する愛があることを私達は忘れてはならないのであります。

先生は学内の各種の委員として、評議員、全学の将来計画委員会委員長として、経済学部のみならず、大学全体の現在と将来のために多くなる貢献をしていただきました。特に先生の温かいお人柄が私達にとって、また学生にとって、いかに大切なものであったかを今痛切に想起いたしております。

大野先生、唄野先生、お二人とお別れしなければならないことはまことに残念であります。両先生の今後の一層のご清祥をお祈りしつつささやかながらこの論文集を編集し、両先生の記念としてこれを捧げる次第であります。

平成7年3月

大阪府立大学経済学部長

前 田 英 昭